

お詫びと訂正

2025 年版 大学赤本シリーズ No.483『関西大学(文系)』におきまして、内容の一部に誤りがございました。訂正箇所をお知らせいたしますとともに、謹んでお詫び申し上げます。

教学社編集部

記

2024 年度 p. 110 全学日程 1 : 2 月 1 日実施分 解答編 英語
大問Ⅲ

解答 A (6)

誤 A

正 B

これに伴い、当設問の解説(p. 114)を以下のように訂正します。

正

前文で、データ収集によって交差点の安全性について正確な情報が得られ、問題の解決法を見つけることが可能になると述べられている。ここでは規模を拡大して大都市にも同じことができないか、と言っている。「同じこと」とは正確な情報を得て、問題を解決するためのデータ収集のことである。よって B が適切。

解答 A (8)

誤 B

正 A

これに伴い、当設問の解説(p. 114)を以下のように訂正します。

正

下線部の直訳は「都市の現状に合わせるため何が分析されるか」である。これは「現状を忠実に反映するためにどのようなデータが分析されるのか」ということである。まず、現在の「都市の最善の特徴」だけを調べるわけではないことから C が不適であることは明らかである。A. 「データによって表される都市の現時点での性質はどのようなものか」と B. 「今日の都市に対する我々の理解に何を加えることができるか」のうち、B はログが第 10 段で述べていること（都市は日々進化しているため頻繁にデータを更新する必要がある）に近いが、デジタルツインを作ったあとの問題であり、デジタルツインを作る時点での重要な問いではないので不適。したがって、下線部の意味としては A が適切と判断する。

2024 年度 p.310 全学日程 2 : 2 月 6 日実施分 解答編 数学
3 教科型, 3 教科型 (同一配点方式), 2 教科型 (英語 + 1 教科選択方式),
2 教科型 (英数方式 (社会安全)) 大問 III

解答 ③ 誤 -4 正 $-1 \pm 2\sqrt{2}$, -4

解説 (2)

誤

$$g(-2) \neq 0 \text{ より } 4 + 2c + 2 + 2 \neq 0 \quad \therefore c \neq -4$$

$g(x) = 0$ が整数解をもつとき, それは $x = \pm 1, 2$ のいずれかになる。

$$g(1) = 0 \text{ より } 1 - (c + 1) + 2 = 0 \quad \therefore c = 2$$

$$g(-1) = 0 \text{ より } 1 + c + 1 + 2 = 0 \quad \therefore c = -4$$

$$g(2) = 0 \text{ より } 4 - 2c - 2 + 2 = 0 \quad \therefore c = 2$$

以上のことから, 方程式(*)が異なる 3 つの整数解をもつのは $c = 2$ のときである。(→②)

正

このとき, 解と係数の関係より, $g(x) = 0$ の 2 解の積は 2 であるから,
 $g(x) = 0$ の 2 解は $x = 1, 2$ に限られる。

$$g(1) = g(2) = 0 \text{ より } c = 2 \quad (\rightarrow \textcircled{2})$$

解説 (3)

誤

(3) 方程式(*)が 2 重解をもつのは, $c = -4$ のときである。(→③)

正

(3) 方程式(*)が 2 重解をもつとき, $g(x) = 0$ は重解をもつ, または -2 を解にもつ。

$g(x) = 0$ が重解をもつとき, $g(x) = 0$ の判別式を D とすると

$$D = 0 \text{ より } \{-(c+1)\}^2 - 4 \cdot 2 = 0 \quad (c+1)^2 = 8$$

$$c+1 = \pm 2\sqrt{2} \quad c = -1 \pm 2\sqrt{2}$$

$$g(x) = 0 \text{ が } -2 \text{ を解にもつとき, } g(-2) = 0 \text{ より } c = -4$$

以上のことから, 方程式(*)が 2 重解をもつのは $c = -1 \pm 2\sqrt{2}$, -4 のときである。(→③)

以上